

1. 件名：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構の試験研究炉（JRR-3、NSRR、HTTR及び常陽）の運転計画の記載事項に関する面談

2. 日時：令和4年3月8日（火）16時45分～17時35分

3. 場所：原子力規制庁 2階会議室 ※一部出席者はテレビ会議にて実施

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 検査グループ 核燃料施設等監視部門

木村主任監視指導官、石井主任監視指導官、宮坂原子力運転検査官

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

安全・核セキュリティ統括部 安全・核セキュリティ推進室 技術主席、他7名

5. 要旨

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「原子力機構」という。）と、令和4年1月28日付けで届出のあった試験研究炉（JRR-3、NSRR、HTTR及び高速実験炉（常陽））に係る運転計画（以下「本届出」という。）に関して、以下のとおり面談を実施した。

（1）原子力規制庁から、本届出の記載事項の考え方について説明を求め、原子力機構より、配付資料に基づき説明があった。

（2）原子力規制庁から、下記①及び②の事項について説明を求め、原子力機構から以下の説明があった。

①本届出の時点で、原子力機構内の考え方を整理し変更を行った背景

・原子力機構の4基の試験研究炉の運転計画については、令和2年度の運転計画の届出の段階で記載事項の考え方に違いがあることを認識しており、原子力機構内部の改善として整理を行い本届出に至った。

②常陽の運転計画の届出について、燃料体の期首・期末装荷量の整理に係る考え方

・原子力機構内統一で整理を行い、計量管理の考え方を基にして計量管理の区域ごとに取りまとめることとしたため、炉内燃料貯蔵ラックの燃料も含めて計上している。

（3）原子力規制庁から、②の原子力機構の考え方に対し、現行の記載が試験研究炉の運転計画に係る法令等の内容に照らしたものとなっているか説明するよう伝えた。

（4）原子力機構から、本日の面談を踏まえ対応する旨発言があった。

6. 配付資料

- ・試験研究炉の運転計画の記載について